

# 東京湾沿岸域（千葉県側）における水辺、緑地空間の実態と開放に関する研究

日本大学理工学部 学生会員 ○遠藤 雅実

日本大学理工学部 正会員 宮本 守

日本大学理工学部 正会員 吉川 勝秀

## 1. はじめに

これまでの都市化により、東京ベイエリアにおいて多くの自然地や水域への親水空間が喪失してきた。近年、自然地の保全・復元が望まれている。緑地と水辺をネットワーク化して整備することで、水辺や緑地を有効に活用できるのではないかと検討されている。本研究は水と緑のネットワーク形成のための千葉県モデルの実現に資することを目的としている。そのために親水性の現状と行政機関の整備による親水性向上の可能性、緑地の分布や整備状況の実態、企業が所有する緑地空間の現状を明らかにした。対象エリアは東京湾千葉県側の埋立地と周辺の沿岸域とした。はじめに対象エリア全体の特性を示し、次に選定したモデル地区ごとの特性を示した。

## 2. 対象エリアの水辺と緑地の現状

### (1) 対象エリア全体の現状

図-1 に対象エリアの水域（河川・水路等）と緑地（都市公園、緩衝緑地等、地域制緑地、埋立地内の工業用地内緑地）を示した。水辺については、千葉県側は東京都、神奈川県に比べ東京湾へ流入する河川が多い。また海岸線と並行して流れる横水路がある。残された自然地としては三番瀬、谷津干潟、盤洲干潟がある。一方で幕張には人工海浜といった環境インフラが整備されている。

緑地については千葉県の都市計画基礎調査のデータを用いて、対象エリアの緑地空間の現状把握を行った。緑地分類は法定分類を参考に、都市公園（人々の利用、緑の拠点施設）、緩衝緑地等（緩衝緑地、都市緑地、緑道：都市公園に含まれるが整備目的が異なり、拠点となる施設ではないもの）、地域制緑地（田、畑、山林等：水と緑のネットワークにおいて利用しづらい緑地）の3タイプに分類した。各自治体の整備状況把握のため、自治体全域を対象とした。図-2に各自治体の緑地を示し、図-3に緑地に対する分類項目の内訳を示した。対象エリアの南部（市原、袖ヶ浦、木更津、君津、富津）では地域制緑地が高い割合を占めている。北部（浦安、市川、船橋、習志野、千葉）では緑地は少ないが都市公園が比較的整備され、浦安、習志野ではその割合が高い。表-1は対象



図-1 対象エリアの水域と緑地現状

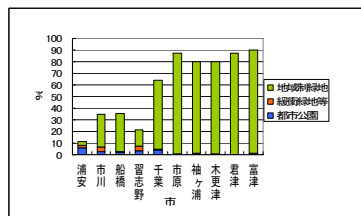


図-2 自治体ごとの緑被量

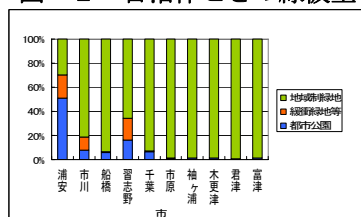


図-3 緑地の内訳

表-1 対象エリア内の緑地割合

|          | 都市公園(%) | 緩衝緑地等(%) | 地域制緑地(%) |
|----------|---------|----------|----------|
| 自治体全域    | 1.4     | 0.5      | 61.2     |
| 海岸線から5km | 3.3     | 2.2      | 26.9     |

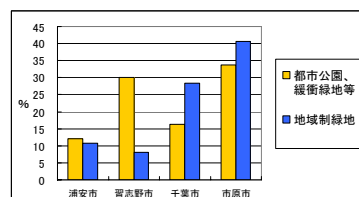


図-4 河川沿いの都市公園等、地域性緑地の割合

エリア全域と海岸線から5kmの沿岸域それぞれの緑地割合を示した。これにより

沿岸域に都市公園等（都市公園と緩衝緑地等）が集中していることが分かる。図-4に河川から100m以内における都市公園等、また地域制緑地が、自治体内のそれぞれの種別に占める割合を示した。市原、習志野において都市公園等は、比較的高い割合で河川沿いに配置されていることが分かる。習志野は地域制緑地より都市公園等が大きく上回り、河川沿いは人々の利用空間に利用されていることが言える。これまでエリア全体の特性を示したが、全ての水辺や緑地が水と緑のネットワークにおいて利用できるわけではない。自治体により特性が異なるため、自治体ごと的小スケールで分析をする必要がある。

### (2) 埋立地内における緑地整備の実態

対象エリアの空間について分析してきたが、埋立地内

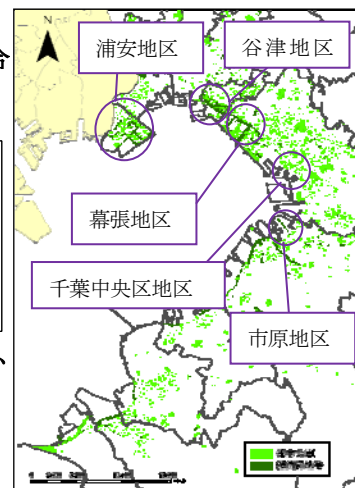


図-5 モデル地区

キーワード、東京湾千葉県沿岸域、水と緑のネットワーク、モデル地区

連絡先：日本大学理工学部水環境システム研究室〒274-0063 千葉県船橋市習志野台7-24-1 737教室 TEL・FAX：047-469-5228

の工業用地における緑地空間の実態は公開されておらず、不明なため分析しきれていない。そこで図-1 に示すように、衛星写真で確認できる緑地をGISにまとめた。工業用地に対する緑地の割合は約 5.9%となった。千葉県自然環境保全条例の緑化協定実施要綱では、敷地面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上の工場等への緑地設置、工場の用途地域では 10～20%以上の緑化が定められている<sup>1)</sup>

### 3. モデル地区における水辺と緑地の現状分析

水と緑のネットワークの中で、拠点となる空間形成や空間の一般開放の可能性を明らかにするため、小スケールでの現状を明らかにした。図-5 に示すように、土地利用形態に特徴のある浦安地区（浦安市）、谷津地区（谷津干潟）、幕張地区（花見川河口）、千葉中央区地区（都川河口）、市原地区（八幡運河）の 5 地区地域をモデル地区として選定した。

モデル地区の水辺空間について、現地調査により各地区を流れる水域の親水性を評価した。「評価内容は水に触れられる」、「水辺に近づく」、「側路（管理用通路）により川が見える」、「側路がなく川を見ることができない」の 4 区分とした。図-7、図-8、図-9、図-10、図-11 に各モデル地区を示し、図-12 にモデル地区の親水性の内訳を示した。各モデル地区に関する考察を以下に示す。

#### （1）浦安地区

境川を中心とした親水整備がなされ、親水性が比較的高く、親水整備された下流部沿いは緑道が整備されている。緑地は河川間に多く点在し、河川間をつないでいる。

#### （2）谷津地区

谷津干潟は条例により保護され水際まで近づきづらいが、干潟周辺の緑地が整備により周辺地域の拠点となっている。高瀬川と菊田川河口部は公園が整備されている。

#### （3）幕張地区

河川沿いに遊歩道等があり、水辺に近づく整備がされ比較的亲水性が高い。親水整備された花見川、浜田川の下流部沿いには並行して緑道が整備されている。横水路、海浜公園により河川間をつないでいる。

#### （4）千葉中央区地区

都市域である都川下流部は川に近づきづらいが、公園と一体となっている親水整備箇所がある。県庁付近の拠点では、側路がなく水辺へ近づきづらい。

#### （5）市原地区

沿道に構造物（宅地、商店）が近接し、現状では近づけない割合が高い。工業用地、地域制緑地に囲まれ周辺地域の拠点となっている。



図-6 浦安地



図-7 谷津地区



図-8 幕張地区



図-9 千葉中央区地区

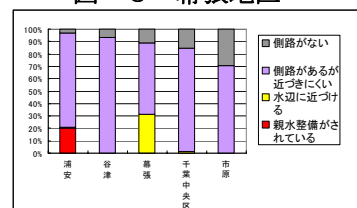


図-11 モデル地区の親水性

### 4. 水辺空間の一般開放について

親水性の調査結果は、側路より河川を見るが大半を占める現状である。親水性向上に関する整備が、管轄する国、県、市それぞれの行政機関により計画されている。県が所有する八幡運河では、市原市への移管を行うために親水整備が検討されている。

### 5. まとめ

千葉県側全体を分析した結果、水域、緑地が多く存在し、水と緑のネットワーク形成のポテンシャルがあることが分かった。モデル地区ごとの現状を明らかにした結果、地区内を流れている河川は水辺まで近づけない区間が大半を占めており、浦安、幕張においては他地区より親水性整備が進められていることが分かった。

### 参考文献

- 1) 千葉県：千葉県自然環境保全条例に基づく緑化協定実施要綱、2006



図-10 市原地区